様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２２年　６月　８日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2009
課題番号：19330153
研究課題名（和文）　医療領域における臨床心理研修プログラムの開発・評価研究

研究課題名（英文）　Study on the Development and Evaluation of Internship Programs for Clinical Psychologists in the Field of Medicine

研究代表者
下山　晴彦　（HARUHIKO　SHIMOYAMA）
東京大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：60167450

研究成果の概要（和文）：医学領域における臨床心理研修の現状分析を行った結果、日本の研修プログラムに不備があること、そしてその原因として、前提となる臨床心理学概念の未確立があることが明らかとなった。そこで、英米の臨床心理学者、医療関係者、利用者との協働研究によって、新たな臨床心理学の活動モデルを提案し、それに基づく研修プログラムを開発した。そのプログラムをアクションリサーチとして東京大学医学部附属病院で実施し、その成果について質的な観点から評価を行い、有効性が認められた。

研究成果の概要（英文）：As a result of analyzing the present situation of internship programs of clinical psychology in the field of medicine, it came to light that there were many problems, which had resulted from confusion of definition of clinical psychology. Then, we developed a new model of clinical psychology practice and an internship program based on the model in collaboration with clinical psychologists in UK and US, psychiatrists and users. The program was implemented as a research action at the hospital of Medical School of University of Tokyo and its effect was evaluated by qualitative analysis. Finally it was shown that the program was efficient in training psychologists as professionals.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
2008 年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2009 年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
年度			
年度			
総　計	14,500,000	4,350,000	18,850,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学
キーワード：心理学的介入、臨床心理研修、インターンシップ、協働、プログラム開発、精神医療、アクションリサーチ

１．研究開始当初の背景

近年、世界的に医療領域における心理職の活動に対する社会的ニーズが高まってきている。単に精神科医療に止まらず、癌などの重病の患者や家族の心理的ケアや病気の予防などの保健活動においても心理職の関与が必要とされるようになってきているからである。その結果、医師と協働して医療サービスに携わることのできる心理職の必要性が高まっている。ところが、日本の臨床心理学は、教育領域を中心に発展してきたこともあり、医療領域で他職と協働するための心理職の教育訓練が進んでいない。

２．研究の目的

日本の臨床心理学は、スクールカウンセリングに代表されるように学校・教育領域を中心に発展してきた。そのため、医療領域における心理職の教育訓練、特に現場における研修、つまりインターンシップシステムの構築が緊急の課題となっている。そこで、本研究は、日本の大学院で実施できる研修プログラムを提案することを最終目的とする。ただし、最終目的に到達するために次の点も併せて目的とする。（１）まず日本の臨床心理学大学院における医療領域での教育訓練の現状を把握する。（２）医療領域の活動では、医師と協働して医療サービスに携わるために生物-心理-社会モデルに基づいた教育プログラムが基礎となるので、その現状を把握する。（３）それらの現状を踏まえ、関係者との研究会を通して実践可能な研修プログラムを開発し、アクションリサーチとして実施する。（４）医療職、行政職、利用者などによる研修プログラムの外部評価を行い、その評価結果によってプログラムの改善を行い、最終的に研修プログラムのマニュアルを完成させる。

３．研究の方法

（１）面接調査による現状把握
臨床心理学大学院における医療領域の教育訓練の現状と生物－心理－社会モデルによる基礎教育の現状を把握するために面接調査を行う。得られたデータは、書き起こして質的分析を行う。
（２）共同討議による研修モデル開発
医療領域における、望ましい心理職の活動をテーマとして、医療現場の臨床心理活動に関連する者、具体的には現場の臨床心理士、医師、看護師、行政職、社会福祉士、利用者、臨床心理学教員、大学院生で協議を重ねて、心理職の訓練で必要となる事項を抽出する。そして、その結果に基づいて医療領域でのインターンシップのモデルを開発する。
（３）アクションリサーチによるモデル改善
開発された研修モデルを東京大学医学部附属病院で実施し、その効果を関係者に評価してもらい、改善していく作業を行う。評価者としては、研修プログラムを受ける院生、現場で指導にあたる医師、英国と米国で心理職の教育にあたっている臨床心理学者である。プログラム実施後に見直しの会を開催し、フォーカスグループを行って改善点に関する質的データを収集し、それを質的に分析する。その結果を受けてプログラムの改善を行った。
（４）外部評価による研修プログラムの検討
アクションリサーチを経てプログラムおよび実施マニュアルを完成させ、その結果についての外部評価を受ける。外部評価者は、臨床心理学のインターンシップ教育が進んでいる英国の臨床心理学者、精神科医医師、行政職、現場の臨床心理士とする。

４．研究成果

第一期：実態調査（2007 年度前期）

全国の大学の教育カリキュラム、特に医療領域での研修プログラムを調査した。具体的には、 シラバス調査（国立大学３　私立大学３） 、教員からの聞き取り調査（国立 8 名 私立 7 名） 学生からの聞き取り調査（国立 15 名、私立 30 名）を行った。その結果、 ①シラバスは整っているが、実際には各教員によって教える内容が異なっており、臨床心理学についての全体像がつかめない。教員の所属する学派の考えや技術に従うことがバラバラに求められている、② 心理教育相談室での外来個人心理療法の技法訓練が中心のために（医療）現場研修との連続性が見出させない。相談室の個人療法と、現場でのチーム活動の発想が異なっているので戸惑う、③現場研修に向けての準備教育がなされていないので、何をどのように学んだらよいのか（研修の目標）がわからない。予備知識として何が必要なのか不明である、④研修する現場においての指導体制が未確立である。臨床心理士がいても、体系的に指導されるシステムが形成されていない、⑤研修現場と大学との連携が未確立である 、といった実態が明らかとなった。

第二期：研修モデルの開発（2007 年度後期～2008 年度前期）

上記実態調査で、本質的な問題として、日本のおいて臨床心理学の統一的な概念が未確立あることが示された。そこで、研修プログラムの開発以前に、その基盤となる臨床心理学概念の再構築が緊急の課題となっていることが明らかとなった。課題解決に向けて、米国と英国の臨床心理学との比較研究、医師、行政官、利用者との意見交換を積極的に行った。その結果、医療領域で役立つ臨床心理学概念の構築のためには、利用者との協働関係を基礎としたうえで、①科学者―実践者モデル、②エビデンスベースト・アプローチ、③生物―心理―社会モデル、④認知行動療法、⑤子どもの問題への対策の導入、といった方法や観点を組み入れた臨床心理学の活動モデルの構築の必要性が明らかとなった。この結果を受けて、①～⑤の課題を組み入れた臨床心理学の活動モデルを、臨床心理アセスメントに集約する形で開発し、その成果を公表した（下山 2008、下山・松澤 2008）。なお、このような研究過程の集大成として 2 つの国際シンポジウムを開催した。その結果、医療領域で活動するためには、精神医療の知識に加えて、① 社会福祉学の知識 つまり社会福祉の制度や組織など、 および②行政と連携するための知識 つまり行政組織や法律なども学習する必要性が示された。その成果報告書として書籍を編集し、後日出版した（下山・村瀬　2010）。

また、このような概念研究と並行して、その成果に基づいて研修プログラムの暫定モデルを開発し、それを東京大学大学院教育学研究科附属心理教育相談室、都内の神経科クリニックおよび東京大学医学部附属病院をフィールドとして試験的に実施し、プログラムの検討を行った。この研究プロセスについては、下山他（2009a, b）にまとめた。

第三期：アクションリサーチによるモデルの改善（2008 年後期～2009 年前期）

前期において暫定的に開発したモデルを引き続き臨床現場で実施しながら、利用者である大学院生、指導者である精神科医や臨床心理士からの評価を聴き取り、随時変更を行った。それとともにプログラムとしての完成度を高めるために実施マニュアルを作成する作業を行った。このマニュアルについては、研究成果として発表した（下山 2010a）。また、

アクションリサーチと並行して、臨床現場で心理職と協働している精神科医から、心理職が精神医療の現場で研修を行うのに必要な精神医学に関連する専門知識と技能とは何かをテーマとした研究会を重ね、研修生が参照する精神医学テキストを作成する作業を進めた。その結果、①精神医学と、その背景にある生物学の学習、具体的には精神病理学、脳科学、臨床薬理学、遺伝学などの学習、②医学一般の知識、特に リエゾン精神医学、精神腫瘍学と関連する知識と方法の学習が必要となることが明らかとなった。その成果については、2 冊の書物となって結実しつつある（下山・金生 2009、野村・下山　近刊）。

第 4 期：研究の成果に関する外部評価（2009 年後期）

最終的な研究成果として、①面接室内に閉じた活動から 社会に開かれた活動へ ②核となる心理学の専門知識と研究技能 ③心理職の基本としてのコミュニケーション技能 ④利用者、他専門職、行政と協働でき、多職種チームに参加できる社会性 ⑤専門職としてのリーダーシップ（調整能力）の 5 点を組み込む臨床心理学の活動モデルを開発し、それを公表した（2010b）。その活動モデルに基づく研修プログラムを発表するとともに、それに関する外部評価を受けることを目的として、医療領域における心理職の活動に関わる専門職、および心理職の研修プログラムが充実している英国の臨床心理学会の前会長を招いての国際シンポジウムを開催した。シンポジムでは、研修プログラムの妥当性について肯定的な評価を得ることができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

① 下山晴彦　大学病院における臨床心理研修プログラムの開発－研修マニュアルの作成を通して－　東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要，33，2010　pp. 56-64

② 下山晴彦・平林恵美・西村詩織・慶野遥香・石津和子・吉田沙蘭・高山由貴・藤平敏夫　特集：医療領域における臨床心理研修プログラムの開発研究　東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要，32，2009　pp. 115-124

③ 下山晴彦・西村詩織・平林恵美・慶野遥香・石津和子・吉田沙蘭　特集：子どもの強迫性障害に対する認知行動療法プログラムの開発研究　東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要，32，2009　pp. 125-135

〔図書〕（計５件）

① 下山晴彦　臨床心理学をまなぶ１　これからの臨床心理学　東京大学出版会 2010　279

② 下山晴彦・村瀬嘉代子（編）今、心理職に求められていること　誠信書房 2010　255

③ 金生由起子・下山晴彦（編）精神医学を知る－メンタルヘルス専門職のために－ 東京大学出版会　2009　261

④ 下山晴彦・松澤広(編)　実践・心理アセスメント 日本評論社 2008　187

⑤ 下山晴彦　臨床心理アセスメント入門 金剛出版　2008　233

〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
下山　晴彦（SHIMOYAMA HARUHIKO ）
東京大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：60167450

(2)連携研究者
加藤進昌（KATOU NOBUMASA）
昭和大学・医学部付属病院・教授
研究者番号：50158846

田畑治（TABATA OSAMU）
愛知学院大学・心身科学部・教授
研究者番号：60025103

金沢吉展（KANAZAWA YOSINOBU）
明治学院大学・心理学部・教授
研究者番号：10152779

金生由紀子（KANOU YUKIKO）
東京大学・医学部・准教授
研究者番号：00233916

能智正博（NOUTCHI MASAHIRO）
東京大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：30292717